

**[成果情報名]短太系のニガウリを改良した収量性の高い新品種候補「研交7号」**

**[要約]**沖縄在来の短太系のニガウリ「アバシ」を改良し、より収量性に優れるニガウリ「研交7号」を育成した。「研交7号」は、果実が太くて大型、苦みが弱く、収量は優良品種「汐風」と同等である。

**[キーワード]**ニガウリ、新品種、促成栽培、収量

**[担当]**沖縄県農業研究センター・野菜花き班

**[代表連絡先]**電話 098-840-8506

**[分類]**研究成果情報

**[背景・ねらい]**

沖縄県では、果実が太くて短い「アバシ」と呼ばれる在来の短太系のニガウリが栽培されており、その特長として果肉が厚く苦みが弱いことから、ニガウリの消費拡大といった面で消費者の多様な嗜好性に対応できる。しかし、問題として「アバシ」は雌花節率が低いため収量が低い。そこで、「アバシ」特有の果実が太い形質を有し、収量性に優れるニガウリ品種を育成する。

**[成果の内容・特徴]**

1. 「研交7号」は、OAC09-04A を種子親、OAC09-04C を花粉親とする雑種第一代 (F1) である。
2. 「研交7号」の果実形質は、「アバシ」に比べて果実長は長く、果実径は同等、果皮色は同等、苦みは弱い。また、「汐風」に比べて果実長は短く、果実径は太く、果皮色は薄く、苦みは弱い (表1、図1)。
3. 促成栽培における可販果収量は、「アバシ」よりも1.5倍以上多く、「汐風」と同等である (表2)。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 沖縄県野菜優良種苗取扱要領に則り、ニガウリの優良品種として認定を予定している。
2. 「研交7号」は「沖農G7」として品種登録出願中である。
3. 果実特性および収量性の時期別推移は、農業研究センター本所 (沖縄県糸満市) で試験した結果である。果実調査は、「研交7号」および「アバシ」は果実径が6.5cm、「汐風」は5.5cmに達した果実を供試している (表1、2)。
4. 「汐風」より果肉が厚く (データ略)、苦みが弱く、食感はずみずみしいので (表1)、サラダ等の生食に適する。

[具体的データ]



図1 (左)「研交7号(左)」と「汐風(右)」、(右)「研交7号(左)」と「アバシ(右)」の果実

表1 果実特性<sup>z</sup>

品種・系統	果実重 (g)	果実長 (cm)	果実径 (cm)	果径比 (果実長/果実径)	果皮色	官能評価 <sup>y</sup>		雌花節率 (%)
						苦み	みずみずしさ	
研交7号	361 a <sup>x</sup>	24.1 b	6.8 a	3.5 b	緑	-0.9 c	1.0 a	25.0 a
アバシ	239 c	18.5 c	6.8 a	2.7 c	緑	-0.5 b	0.7 b	11.1 b
汐風	300 b	26.6 a	6.0 b	4.4 a	濃緑	0.0 a	0.0 b	28.2 a

<sup>z</sup> 官能評価以外：定植 2017年10月12日、受粉開始 2017年11月24日、収穫期間 2017年12月18日～2018年1月4日 (n=12)

<sup>y</sup> 官能評価：2018年10月18日に定植し、2019年3月5日に収穫した果実で行った。「汐風」を評点0の基準品種とし、7段階評点(-3～+3)で実施した(n=11)。評点基準は、「苦み」が(-3：全く苦くない、0：苦い「汐風」、+3：極苦)、「みずみずしさ」が(-3：全くみずみずしくない、0：普通「汐風」、+3：すごくみずみずしい)とした。「苦み」は数値が小さいほど苦みが弱く、「みずみずしさ」は数値が大きいほど、よりみずみずしさを感じることを示す。

<sup>x</sup> 異符号間には多重比較検定 (Tukey-Kramer) の結果5%水準で有意差があることを示す。雌花節率はアークサイン変換後に比較検定を行った。

表2 月別可販果収量<sup>z</sup>

品種・系統	可販果収量(kg/10a)						
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計
研交7号	364	1,719	1,856	1,184	1,110	460	6,693 a <sup>y</sup>
アバシ	103	719	1,244	951	923	293	4,233 b
汐風	293	1,661	1,766	1,640	1,601	492	7,453 a

<sup>z</sup> 定植 2018年10月18日、受粉開始 2018年12月7日、収穫期間 2018年12月24日～2019年5月8日

<sup>y</sup> 異符号間には多重比較検定 (Tukey-Kramer, n=3) の結果5%水準で有意差があることを示す。

(沖縄県農業研究センター)

[その他]

予算区分：交付金

研究期間：2010～2020年度

研究担当者：谷合直樹 (沖縄県農大)、宮城徳道 (沖縄県中部普セ)、  
新里仁克、平田雅輝 (沖縄県庁)

発表論文等：

- 1) 谷合ら (2019) 生産力の高い短太系ニガウリ品種の育成. 園芸学研究, 19 (別1) : 138
- 2) 谷合ら「沖農G7」品種登録出願 2020年7月27日 (第34835号)